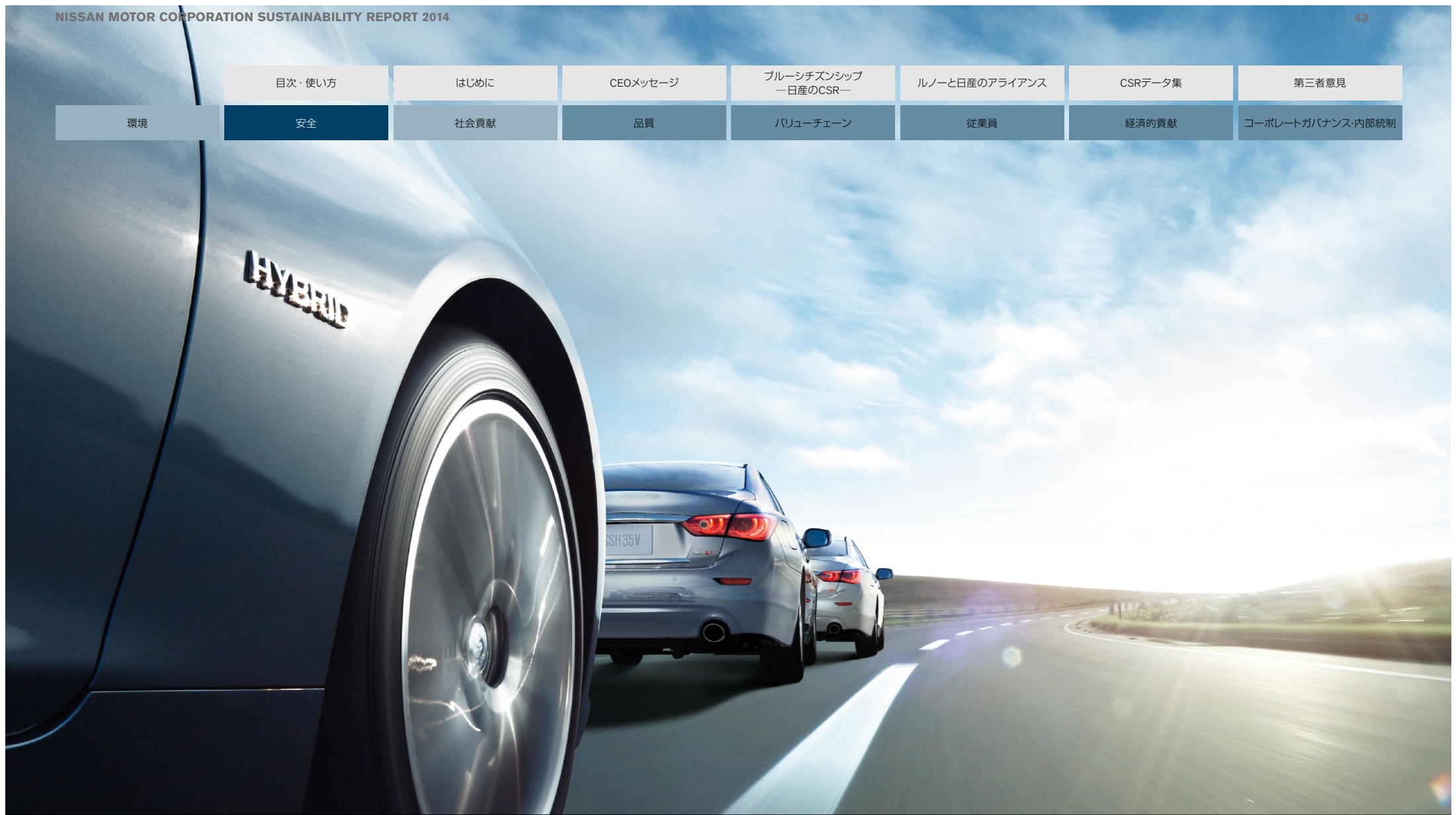


	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制



# 安全

クルマは人々の生活の利便性を高めてきましたが、一方で人々の生命や安全を脅かすような事故が発生しています。日産は“走る楽しさと豊かさ”を追求するとともに、リアルワールド(現実の世の中)における高い安全性とお客さまの安心を最優先に考え、日産車がかかわる死亡・重傷者数をゼロにするという究極の目標を掲げています。クルマそのものの安全性向上はもちろん、ドライバーや歩行者、さらにはクルマを取り巻く多くの方々に安全意識を高めてもらうための啓発活動など、真に安全なクルマ社会の実現に向けて、社会とともに幅広く取り組んでいます。

## 取り組みの柱

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## 安全

### CSRスコアカード

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは、「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	重点活動(価値)	進捗確認指標(適用範囲)	2011年度	2012年度	2013年度	長期ビジョン
技術の革新に加え、安全推進活動に積極的に取り組み、クルマ社会をより安全なものにしていきます	日産車がかかわる交通事故死亡者数などの定量的低減目標値を設定し、リアルワールドでの事故分析をもとに、安全なクルマづくりと安全啓発活動の実施	日産車がかかわる交通事故における死亡・重傷者数の1995年比低減率 *公共データをもとに算出するため、実績の把握は当該年度の約2年後	日本:59%減少 米国:54%減少 欧州(英国):58%減少 *2011年12月末時点	日本:59%減少 米国:53%減少 欧州(英国):64%減少 *2012年12月末時点	未集計(データが公表され次第、集計予定)	究極の目標として、日産車がかかわる交通事故における死亡・重傷者数ゼロを目指す

### 関連指標

日産車がかかわる交通事故における死亡・重傷者数の1995年比低減率 (2012年)	
日本	59%減少
米国	53%減少
欧州(英国)	64%減少



▶ GRI G4 Indicators  
▶ G4-PR1

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 安全への取り組み

安全に対する日産の方針は、リアルワールド(現実の世の中)における安全性を追求することであり、「交通事故のない社会」の実現を目指しています。日本では2013年の交通事故死亡者数が4,373人となり、13年連続で減少しました。しかし、世界保健機関(WHO)は、世界全体で毎年124万人の人々が交通事故で命を落としており、今後緊急に対策をとらなければ2030年までには死亡原因の5位になると予測しています。

日産は、日産車がかかわる死亡・重傷者数を2015年までに1995年比で半減させることを目指してきましたが、日本、米国、欧州(英国)ではすでに達成しており、現在は、2020年までに日本、米国、欧州(英国)でさらに半減させる高い目標に向かって活動を続けています。死亡・重傷者数を実質的にゼロにすることが、究極の目標です。

交通事故を低減させ、日産の掲げた目標を実現するには、クルマの安全技術を進化させ、その機能を多くのクルマに普及・拡大させるのはもちろん、人や交通環境も含む総合的な取り組みが必要です。真に安全なクルマ社会の構築に貢献するため、日産は「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む「トリプルレイヤードアプローチ」を推進しています。



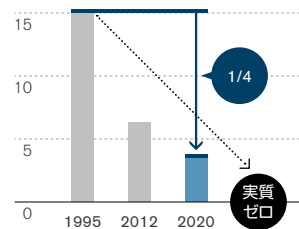
#### 日産の究極の目標：

日産車のかかわる死亡・重傷者数を実質ゼロにする

#### 日産の取り組み：

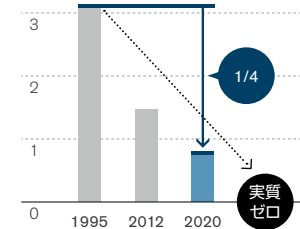
「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む「トリプルレイヤードアプローチ」

日本 日産車1万台当たりの死亡・重傷者数



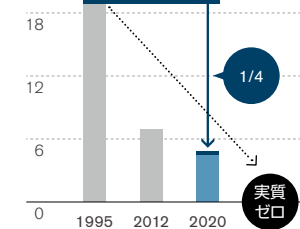
出所：公益財団法人交通事故総合分析センター

米国 日産車1万台当たりの死亡者数



出所：Fatality Analysis Reporting System

欧州(英国) 日産車1万台当たりの死亡・重傷者数



出所：STATS19 data, U.K. Department for Transport

### 2013年度の実績

- 2013年8月に北米よりグローバルに発売した「インフィニティ Q50」(日本での車両名「スカイライン」)に、世界初となる「プレディクティブフォワードコリジョンワーニング」を搭載
- 「インフィニティ Q50」は、米国新車アセスメントプログラム(US-NCAP)、欧州新車アセスメントプログラム(ユーロNCAP)、および道路安全保険協会(IIHS)にて最高評価を獲得
- 前方車両との衝突回避を支援するシステム「エマージェンシーブレーキ」を2013年8月に北米よりグローバルに発売した「インフィニティ Q50」(日本名:「スカイライン」)に搭載したほか、日本市場では「エクストレイル」「セレナ」「ノート」、欧州市場では「キャシュカイ」に搭載
- 交通事故低減に効果が期待できる自動運転技術を搭載した「Autonomous Drive」をイベント「NISSAN 360」にて公開。神奈川県のおさみ縦貫道路にて実証実験を開始
- インドにて「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」を開催

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 今後の取り組み

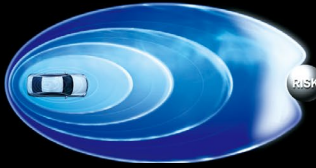
- より効果の高い安全技術を新規開発、および幅広い製品ラインアップへの採用を拡大
- 交通安全プログラムを、インドの主要都市に続き、その他の地域にも拡大展開

### クルマ：安全技術開発への取り組み

「セーフティ・シールド」という独自の考え方のもと、日産ではできるだけドライバーを危険に近づけないようにクルマが支援する技術開発を進めています。また、万が一衝突が避けられないときも、被害を軽減する技術を提供しています。

#### 安全技術コンセプト「セーフティ・シールド」

日産は、クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」を基本に、安全技術の開発を進めています。これは、クルマが置かれている状態を「危険が顕在化していない」「危険が顕在化している」「衝突するかもしれない」「衝突が避けられない」「衝突」「衝突後」の6段階に分けて捉え、各状況に応じてクルマが人を守るさまざまな技術の開発を進めていくという考え方です。

危険が顕在化していない ■ ディスタンスコントロールアシスト (インテリジェントペダル) ■ インテリジェントクルーズコントロール (全車速追従・ナビ協調機能付) ■ アクティブAFS ■ アラウンドビューモニター	いつでも安心して運転できるよう ドライバーをサポートする技術	
危険が顕在化している ■ プレディクティブフォワード コリジョンワーニング ■ レーンデパーチャーワーニング ■ レーンデパーチャープリベンション ■ ブラインドスポットワーニング ■ ブラインドスポットインターベンション ■ バックアップコリジョンインターベンション	危険な状態になりそうなときも 安全な状態に戻すよう ドライバーをサポートする技術	
衝突するかもしれない ■ エマージェンシーブレーキ ■ ABS (アンチロックブレーキシステム) ■ VDC (ビークルダイナミクスコントロール)		
衝突が避けられない ■ インテリジェントブレーキアシスト ■ 前席緊急ブレーキ感応型 プリクラッシュシートベルト		
衝突 ■ ゾーンボディ ■ SRSエアバッグシステム ■ ポップアップエンジンフード	万が一衝突が避けられないときに 被害を最小にとどめる技術	
衝突後 ■ エアバッグ展開連動ハザードランプ		



	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### “ぶつからないクルマ”の実現に向けて

どんなに慎重に運転してもドライバーには必ず“死角”があります。死角に限らず、視野内の領域でさえ、人の感覚はときに判断を誤り、思わぬリスクを招きます。そうしたリスクの芽をクルマがあらかじめ察知し、ドライバーに危険を知らせ、緊急時にはシステムが介入して事故を未然に防ぐ。日産は、段階別に危険を察知することで状況に応じた安全運転を促す予防安全技術を開発しています。クルマが人を守るという「セーフティシールド」コンセプトに基づいた予防安全技術をクルマの前方だけではなくサイドや後方にも広げた360度「ぶつからないクルマ」が、日産の目指す全方位運転支援システムです。

2013年度は従来の技術をさらに進化させ、これまで検知できなかった2台前の車両の動きを検知し、減速が必要だと判断した場合にはドライバーに警報する「プレディクティブフォワードコリジョンワーニング」など、クルマがドライバーをサポートできる場面が拡大しました。

また、日産は開発した支援システムをよりシンプルな構造で実現する技術開発を推進。2013年度はクルマを真上から見ているような映像で駐車を支援する「アラウンドビューモニター」を日産初の軽自動車「デイズ」に搭載。前方車両との衝突回避を支援する「エマージェンシーブレーキ」も複数車種に搭載しています。

世界中すべての人に最適なモビリティを提供することを目標に掲げている日産は、安全技術を普及・拡大することも自動車メーカーとしての使命だと考えています。

### 「インフィニティ Q50」（日本名：「スカイライン」）に搭載された日産初の\* 全方位運転支援システム

#### エマージェンシーブレーキ

新型ミリ波レーダーで前方車両との衝突の危険を察知すると、ディスプレイ表示やブザーに加え、アクセルペダルの反力と緩やかなブレーキングによる直感的な警報でドライバーに回避操作を促します。それでもドライ

バーが回避操作を行わない場合には、緊急ブレーキを作動させて衝突を回避、または被害を軽減します。

#### プレディクティブフォワードコリジョンワーニング

2台前を走る車両との車間距離・相対速度を新型ミリ波レーダーでモニタリング。自車からは見えない前方の状況の変化を検知し、減速が必要と判断した場合には、ディスプレイ表示とブザーによる警報でドライバーに注意を促します。



世界初となるプレディクティブフォワードコリジョンワーニング

#### ブラインドスポットワーニングとブラインドスポットインターベンション

車両後部の左右に設置したサイドセンサーで、死角になりやすい後側方の隣接レーンに位置する車両を検知。サイドミラー横のインジケータで知らせます。隣接レーンに車両がいるにもかかわらずドライバーがレーンチェンジを開始すると、接触を回避するよう運転操作を支援します。



ブラインドスポットワーニングとブラインドスポットインターベンション

\*前方、側方、後方、全方向での安全性能を高めた運転支援システムが日産初（2013年11月現在 自社調べ）

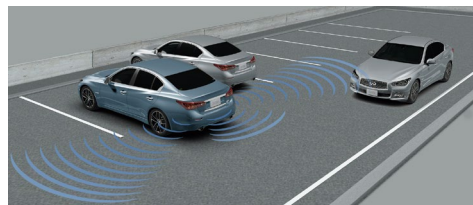
	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### レーンデパーチャーワーニングとレーンデパーチャープリベンション

ルーフコンソールに配置されたカメラで、自車前方のレーンマーカーとの相対位置を検出し、車両が車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合には、表示とブザー音で注意を喚起(レーンデパーチャーワーニング)、車両を車線内に促す力を発生させ、ドライバーの操作を支援します(レーンデパーチャープリベンション)。

### バックアップコリジョンインターベンション

車両後部の左右に設置したサイドセンサーと車両後部のソナーにより、後方を横切る車両を検知。サイドミラー横のインジケーターやバックビューモニターのディスプレイ上の表示と音でドライバーの注意を喚起します。さらにドライバーが後退しようとするれば、アクセルペダルの反力や自動ブレーキなどによる直感的な警報でドライバーに伝え、接近する車両との接触を回避するよう運転操作を支援します。



世界初となるバックアップコリジョンインターベンション

### アラウンドビューモニター (MOD〔移動物検知〕機能、駐車ガイド機能)

駐車時などで車両を上から見下ろす視点で周囲を表示します。さらに周囲の移動物を検知し、アラウンドビューモニターのディスプレイ上の表示と音でドライバーの注意を喚起します。

### 予防安全技術から自動運転技術へ

事故を回避するために必要な、認知、判断、操作という基本的な3つのステップすべてを支援する予防安全技術の機能を拡充し、さらなる進化を目指したものが自動運転技術です。日産は、「交通事故ゼロ」の実現には、事故原因の9割以上といわれる人為的ミスをクルマがサポートする自動運転技術が大変有効であると考えています。

5つのレーザースキャナーと5つのカメラを搭載した自動運転技術の実験車両「Autonomous Drive」は周囲360度の状況を常に把握。他のクルマに遭遇すると、蓄積された知識データの中から人工知能がその場に応じた適切な行動を選択します。信号機のない交差点への進入や、駐車車両の追い越しなど複雑な運転環境においても正しく状況を認知・判断し、安全な走行を実現しています。

高齢化や都市の過密化など多くの課題に直面する社会において、自動運転技術は事故の大幅な低減に貢献し、多くのドライバーに安心を提供するだけでなく、急速に増加する高齢者にとっては日常的な移動機会の拡大にもつながります。日産は、自動運転技術をモビリティに新たな価値をもたらす画期的な技術だと考え、2020年までに実用化し、複数の車種への搭載を目指しています。



自動運転技術の実験車両「Autonomous Drive」

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## 人：交通安全活動の推進

より良いモビリティ社会を構築するためには、ドライバーや乗員、歩行者、自転車など多くの方々に交通安全への考え方を理解していただくことが大切です。日産では安全意識の向上に向けた啓発活動や、ドライバーの運転技術向上を支援する活動にも力を注いでいます。

### 日本における交通安全啓発

1日のうちで交通事故発生件数が最も多くなる時間帯は16～18時の夕暮れ時です。日産は交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」<sup>1)</sup>の一環として、ヘッドライト早期点灯をドライバーに促す「おもいやりライト運動」<sup>2)</sup>に2010年から取り組んでいます。

▶▶ website

<sup>1)</sup>「ハローセーフティキャンペーン」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶▶ website

<sup>2)</sup>「おもいやりライト運動」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください



2013年度は、今までの活動を強化し継続するとともに、下記3つの取り組みを新たに開始しました。

- ① ヘッドライト早期点灯研究所：専用ウェブサイト内に設置し、ヘッドライト早期点灯の「効果」や「事例」などを発信しています。

- ② 夕方安全創造会議の開催：同様の活動をしている方々とつながりを持つことを目的に、グローバル本社にて開催。企業、団体にて交通安全活動に携わっている方、安全技術の開発者、個人で興味をお持ちの方などに参加してもらい「クルマ」「人」「社会」という視点でのプレゼンテーションやヘッドライト点灯のタイミングを伝えるワークショップを実施しました。



- ③ 全国各地の早期点灯呼びかけ：2012年に引き続き、11月10日を「いい点灯の日」として、全国の賛同パートナーとともに、ヘッドライト早期点灯呼びかけを実施しました。



こうした活動を通じて、自動車業界以外の産業や、NPO団体、個人の方々にまで広く浸透しつつあります。

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

**中東地域や韓国での安全教育**

中東日産会社(NMEF)では、ウェブサイトを通じて子供への安全教育を行っています。2009年10月に開設したサイトでは、小学生向けに交通ルールの基本をアラビア語、英語、フランス語で分かりやすく説明しているほか、パズルやぬり絵などを使って子供たちが楽しみながら学べる仕組みにしています。

韓国日産株式会社(NKL)でも2009年4月から「日産キッズ・セーフティ・キャンペーン」を開始しています。ウェブサイトや小冊子などNMEF同様のコンテンツを用いて、交通事故防止のための啓発活動を行っています。

**中国、インドネシアでの交通事故防止活動**

中国では自動車の急速な普及に伴い、交通安全対策が大きな課題となっています。日産(中国)投資有限公司(NCIC)は中国道路交通安全協会とのタイアップにより、人々の安全意識と運転技術の向上を目的とした啓発活動を2005年に開始。お客さま、政府関係者、地元メディアなどに参加していただき、インストラクターの指導のもと、エコ運転のほか、ブレーキングやコーナリングなどの運転技術を学ぶプログラムを通じて、交通安全に対する理解を深める活動を推進しています。現在、この活動は東風汽車有限公司(DFL)の乗用車部門に引き継がれ、ディーラーを含めた「日産技術安全運転フォーラム」という活動につながっています。

2013年8月には北京市で「2013中国道路交通安全フォーラム」も開催。国家公安部や国際道路交通安全協会のほか、国内外の自動車メーカー、部品メーカー、大学・研究機関などから過去最多となる500名あまりの専門家や代表者が出席する中、日産の「トリプルレイヤードアプローチ」について説明し、中国の道路交通事故の減少に有効であるという認識を得ることができました。

また、中国の高校生を対象とした「全国青少年交通安全・環境保護知識コンテスト」も開催。将来ハンドルを握る青少年層に、交通安全への関心や知識を高めてもらうために日産が独自に企画したもので、2013年度で7回目の実施となりました。参加した高校生たちは、環境、自動車の安全装備や交通ルールに関するクイズに挑戦したほか、交通安全に対する自らの意見を発表しました。

インドネシアでは、交通安全の重要性を伝える活動として「日産スマートドライビング」を実施しています。安全運転啓発を目的にライフスタイル誌との共同企画としてスタートし、現在ではインドネシアの大学生にインストラクターが安全運転を直接指導するなど、さらに活動を広げています。

**新興国市場で「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」を開催**

新興国市場における安全運転啓発活動の一環として「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」を実施。一般のお客さまにおける安全運転への意識向上を目指しています。

2013年度は、インドの主要3都市(ニューデリー、ムンバイ、チェンナイ)に続き5都市(バンガロール、ハイデラバード、アメダバード、アムリツァ、ラックノー)を加えて拡大実施。シートベルト装着の重要性をテーマとし、パネル展示やシミュレーター体験を通して参加者にシートベルト装着を促しました。今後ロシアやその他の地域にも拡大していく予定です。



	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社会：社会との連携

日産は、クルマを取り巻く交通環境の情報を利用することで、より安全なクルマ社会を築くことができると考えています。官公庁や大学、他企業と広く連携しながら、ITSを活用した安全で快適なモビリティ社会の実現を目指していきます。

ITSを活用し、交通事故低減と渋滞緩和へ

日産は、2006年より神奈川県において「人」「道路」「車両」を情報でつなぐITSを活用し、交通事故低減や渋滞緩和への貢献を目指した実証実験「SKYプロジェクト」を推進してきました。見通しの悪い交差点では、他の車両や通行者が見えにくく、事故が発生しやすくなります。同プロジェクトは、クルマ単独では対応が難しい、こうした交通事故低減に向け、周辺車両の状況や自転車を取り巻く交通環境の情報を利用しようというものです。

日産は、SKYプロジェクトの成果を活用した新たな安全運転支援システム(DSSS)\*を開発。見通しの悪い交差点において、路上のインフラ設備との通信により、音声ガイドとナビ画面表示で、ドライバーに交差点におけるさまざまな危険(出会い頭衝突、一時停止規制見落とし、信号見落とし、赤信号停車への追突)を伝え、注意を喚起します。

高速道路上の逆走を報知

近年、高速道路で逆走を原因とする重大事故が多発しており、社会問題となっています。日産はNEXCO西日本と共同研究を進め、GPSを活用した逆走報知ナビゲーションを開発しました。同システムでは、ナビゲーション内部のプログラムにより、車両情報(GPS位置、地図、車速など)に基づいた逆走判定処理を行います。逆走している場合は、音声とナビゲーション画像によってドライバーに注意を喚起します。2010年10月に発売した「フーガ ハイブリッド」に世界で初めて搭載しています。

\*DSSS : Driving Safety Support Systems  
警察庁とその所轄法人である一般社団法人UTMS協会が継続的に推進しているプロジェクトで、DSSS用光ビーコンによる路車間通信など、最新のITSテクノロジーを駆使して交通事故の削減を目指すシステム

ステークホルダーからのメッセージ

「おもいやりライト」で交通事故防止

夕暮れ時は交通事故が多くなる時間帯です。特に、秋の夕焼けは人もクルマも背景に溶け込み、見えづらくなります。

2013年10月～12月の3ヵ月間に山形県内で発生した交通事故の総数は1,995件ですが、時間帯別件数で最も多いのが17時台の276件(平均の約3.3倍)です。

一般社団法人山形県安全運転管理者協会(山形県安管)では、夕方早めのヘッドライト点灯で交通事故を防ごうという日産提唱の「おもいやりライト運動」に取り組んでいます。

山形県警が高齢歩行者への夜光反射材直接貼付活動に取り組んでいることもあり、私たちは山形県安管加盟事業所内での早めの点灯指導と夕方の街頭広報活動に力を入れています。道路で「早めにつけてね!ヘッドライト」の黄色い旗を立てて呼びかけると、大概の運転手は協力してくれますが、中には日没後もヘッドライトを点灯しないクルマもあります。オートライト機能があれば点け忘れが防止できますし、早期に点灯するよう調整された「おもいやりライト」機能を装備しているクルマもあります。自動車メーカーにはこうした装備を増やしていくことにもご尽力いただきたいと思います。

皆さん、力を出し合い、日本全国の夕暮れを「おもいやりライト」の光で埋め尽くし、交通事故を減らしましょう。



一般社団法人山形県安全運転管理者協会  
専務理事  
大場 善次郎氏  
(山形市在住)